

那珂川町の文化財 24

国史跡

安徳大塚古墳

2016

那珂川町教育委員会



はじめに

安徳大塚古墳は、那珂川流域の平野部で一番奥の、眺めの良い丘陵上につくられた前方後円墳です。現在は木が生い繁り良くわかりませんが、とても美しい形をしています。全長は64mで、前と後ろに濠をもち、それを含めると81mほどの大きさになります。本格的な発掘調査が行われていないため、詳しいことはわかっていませんが、埋葬施設は礫床粘土槨と思われ、つくられた時期は古墳時代前期と考えられています。「葺石」と「埴輪」が確認されていることから、石を敷き詰めまわりに埴輪をめぐらせた、当時の壮観な姿を想像することができます。



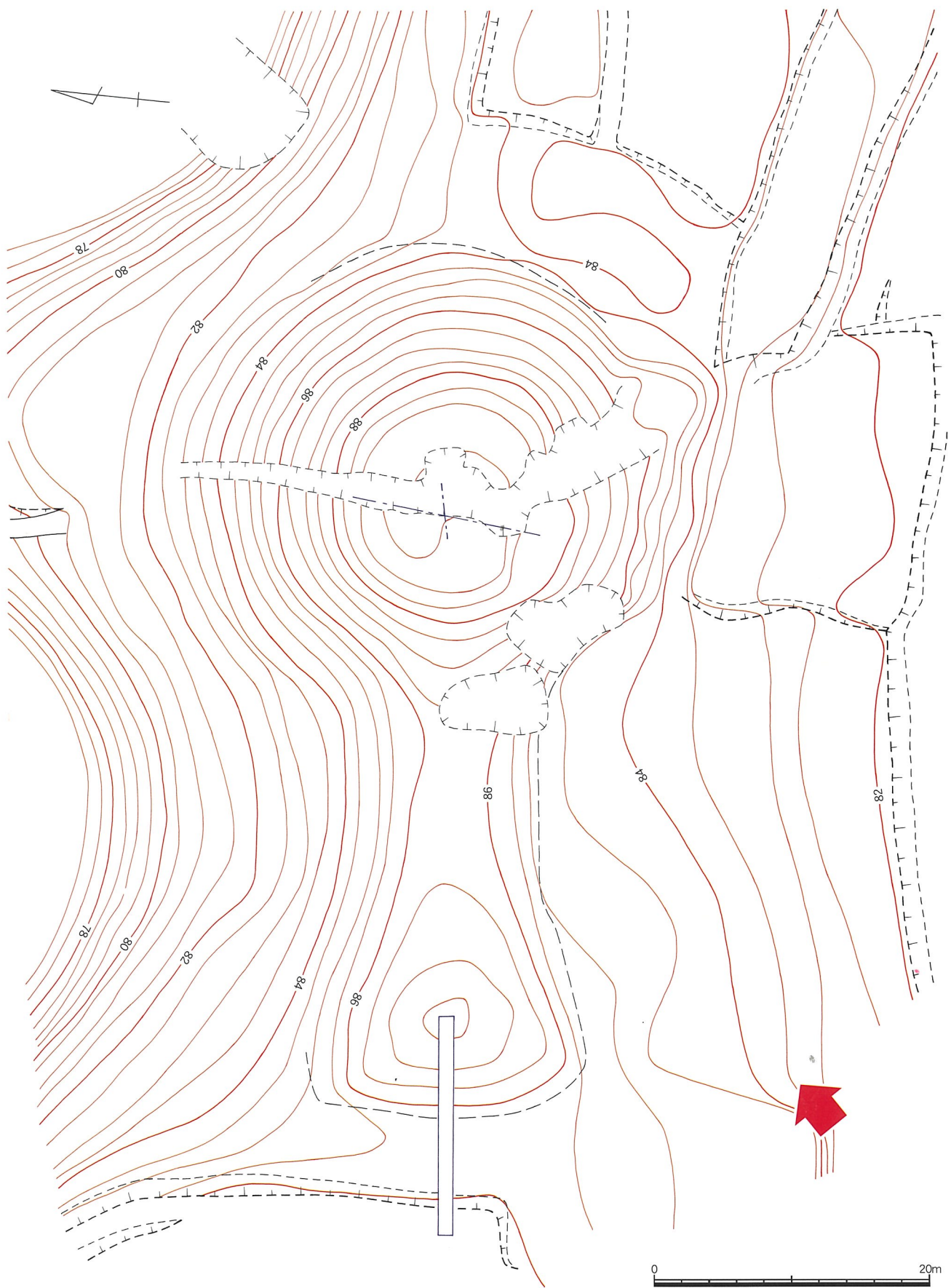
昭和46年撮影、九州歴史資料館提供

▲安徳大塚古墳の遠景 安徳大塚古墳を、現在のミリカローデン那珂川がある地点から見えています。矢印が差す場所に安徳大塚古墳があります。



昭和46年撮影、九州歴史資料館提供

▲安徳大塚古墳の全景 古墳の南半分だけ樹木を伐採して、右図の矢印の方向から撮影したのですが、その独特の形がよくあらわれています。後円部(写真奥)は高さ約6m、直径約35m、前方部(手前)は高さ約2m、幅が約20mあります。



▲墳丘測量図 古墳の形を調べる目的で図化されています。この図から前方後円墳の形がよくわかります。

確認調査の概要

昭和45年に古墳の周辺で大規模な宅地造成（現在の王塚台）の計画がなされ、その際、福岡県文化財保護課により確認調査が実施されました。まず、墳丘測量が行われ、後円部の盗掘坑部分の精査と前方部から濠にかけてトレンチを設定し調査が行われました。墳形・礫床粘土層・埴輪等から判断すると、古墳時代前期に造られた古墳であると考えられます。そして、古墳の造られた当初の姿を良くとどめ、この時期の古墳としては県内で最も美しい墳形を残した前方後円墳であることがわかりました。

調査の記録写真①



昭和46年撮影、九州歴史資料館提供

▲南側から見た安徳大塚古墳 現在は住宅地となっていますが、35年前は広い畑が広がっていました。遠くからでも古墳があるのが良くわかります。



昭和46年撮影、九州歴史資料館提供

▲後円部と盗掘坑(南から) 後円部の墳丘に盗掘坑がぽっかりあいているのがわかります。

調査の記録写真②



昭和46年撮影、九州歴史資料館提供

▲前方部に掘られたトレンチ 写真正面には調査のために掘られたトレンチが見えます。古墳の表面には3～4段の帯状に葺石が敷かれています。

調査の記録写真③



昭和46年撮影、九州歴史資料館提供

◀前方部のトレンチ調査の様子 表土のすぐ下に、葺石や埴輪が埋まっている様子が確認できます。糸をはって、葺石や埴輪を測量しています。



昭和46年撮影、九州歴史資料館提供

▲葺石と埴輪が出土している様子 葺石には川原石が使われました。葺石の間に埴輪が置かれています。

調査の記録写真④

礫床粘土層の断面の状況▶

上半分は無くなっていますが、Uの字状に粘土と小石が堆積しているのがわかります。

▼盗掘坑と礫床粘土層 盗掘坑を精査し、壁に線を引いています。このようにして、墳丘の土の積みれ方を調べています。墳丘は、版築という方法で積みれているのがわかります。



昭和46年撮影、九州歴史資料館提供



昭和46年撮影、九州歴史資料館提供

出土した遺物



1



2



3

▲壺形埴輪(1・2) 1は口縁部片で二重口縁形をしています。2は体部片で外面に丹塗りの円文が描かれています。



4



5



6

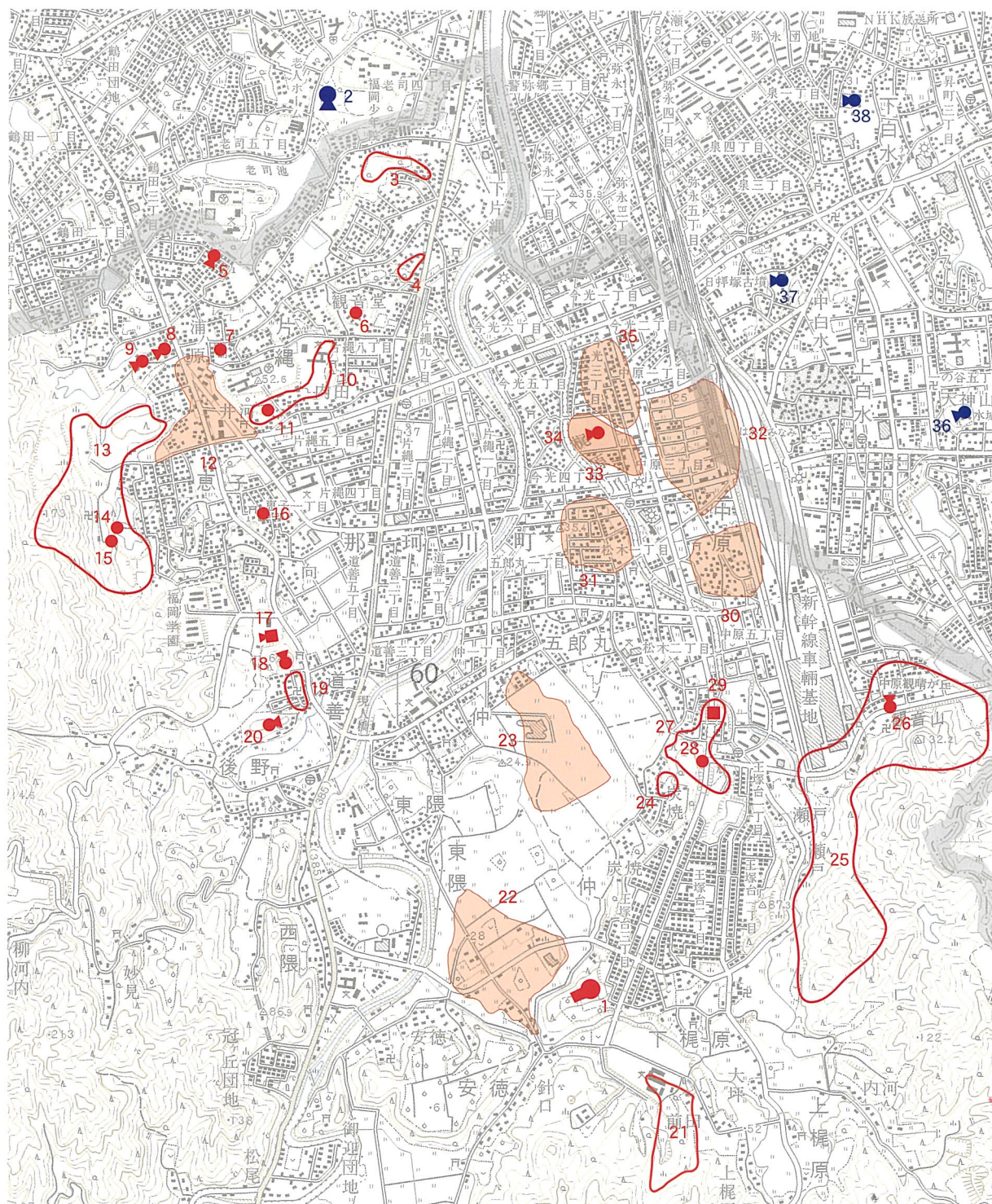
▲円筒埴輪の筒部片(3・4) どちらも外面に丹塗りが施されています。▲壺形埴輪もしくは円筒埴輪の底部片(5・6) どちらも焼成前に穴が開けられ、外面に丹塗りが施されています。

おわりに

本古墳は当時の調査の結果、後円部は一部盗掘を受けていましたが、それでも内部構造は残存する諸特徴から前期古墳に特有な内部構造の一つである礫床粘土槨であることが明らかとなりました。このことは従来、外形から判断されていた所見と矛盾しないもので、墳丘を巡っていると思われる円筒埴輪、壺形埴輪もほぼ同一の年代を示し、古墳時代前半の位置づけができます。とりわけ前方部裾部から発見された壺形埴輪は、近隣の老司古墳発見の壺形埴輪よりも古い様相をもっています。したがって、壺形埴輪と共伴した円筒埴輪も同様のことが考えられ、九州における円筒埴輪の変遷を考えるうえでも重要な資料といえます。また、周辺にあり、すでに消滅している炭焼古墳群、油田古墳群、そして安徳大塚古墳と、そこには連続的に発展していったこの地域の族長の胎動していく姿が見取れます。このことは、安徳大塚古墳とその周辺地域が、国家の形成へと大きく時代が動揺していく時期の実態を連続的に究明できる希少な地域であるともいえます。以上のように、本古墳はこの地域における古墳時代前期の典型的な前方後円墳であり、後円部に一部盗掘による削平があるほかは、よく築造当時の姿をとどめており、県内でも特に美しい墳形を残す古墳といえます。よって、古墳文化の全国伝播の実態及びわが国における古代国家形成期の諸様相を理解する上で欠くことのできない重要な古墳であり、今後、末永く、守り伝えていく必要があります。



▲安徳大塚古墳遠景（南西から）※古墳は私有地のため、立ち入りは御遠慮下さい。



- | | | | |
|----------------|---------------|----------------|----------------|
| 1. 安德大塚古墳(国史跡) | 11. 井河1号墳 | 21. 平蔵古墳群 | 31. 松木遺跡群 |
| 2. 老司古墳(国史跡) | 12. 井河遺跡群 | 22. 安德原田遺跡群 | 32. 中原・ヒナタ遺跡群 |
| 3. 野口古墳群 | 13. 丸ノ口古墳群 | 23. 仲遺跡群 | 33. 今光・宗石遺跡群 |
| 4. 観音堂古墳群 | 14. 丸ノ口V群5号墳 | 24. 炭焼古墳群 | 34. 貝徳寺古墳 |
| 5. 浦ノ田1号墳 | 15. 丸ノ口VI群2号墳 | 25. 観音山古墳群 | 35. 今光・地余遺跡群 |
| 6. 権現塚古墳 | 16. 恵子若山古墳 | 26. 観音山中原I群1号墳 | 36. 天神山古墳 |
| 7. うめぼし山古墳 | 17. 妙法寺2号墳 | 27. カクチガ浦古墳群 | 37. 日拝塚古墳(国史跡) |
| 8. 小丸1号墳 | 18. 妙法寺1号墳 | 28. カクチガ浦10号墳 | 38. 下白水大塚古墳 |
| 9. 小丸2号墳 | 19. 油田古墳群 | 29. エゲ古墳 | |
| 10. 井河古墳群 | 20. 大万寺前古墳 | 30. 中原塔ノ原遺跡群 | |

那珂川町の文化財24
国史跡 安德大塚古墳
2016年

発行：那珂川町教育委員会
福岡県筑紫郡那珂川町西隈1丁目1番1号

印刷：有限会社 成光社
福岡市南区大楠1丁目29番33号

これまで調査された那珂川町の主な古墳時代遺跡と前方後円墳の分布です。
(青印は町外の前方後円墳)